

北区の東十条小学校に授業支援でお邪魔しました。池の水からプランクトンを探す、6年生の授業です。今回授業でお邪魔した6年生は、5年生の時にも「花粉の観察」で一度出会った子どもたちで、皆覚えていてくれました。担任の先生方も同じ方々でした。

光学顕微鏡で倍率100倍にしてプランクトンを探します。最初はプレパラートを作成したり、顕微鏡のピントを合わせたりすることに精一杯で、なかなか見つからないのですが、慣れてくると次々とプランクトンが見つかりだしました。今回はお茶の水女子大学も「超級ビオトープの水」だけを使う予定だったのですが、あまりにも超級（富栄養）すぎて、植物性プランクトン（特に緑藻）がやや少ない印象でした。そこで、東十条小のビオトープと水草の水槽の水の2種類を加え、3種類の水を観察することにしました。これは大正解でした。

記憶している種類だけでも、珪藻類（多数）、ツツミモ類、アオミドロ類、ヨツメモ、クロコッカス類、ミドリムシ類、ゾウミジンコ、カイミジンコ、ネコゼミジンコ（卵を持ったメス）、タマミジンコ、ケンミジンコ（卵を持ったメス）、ノープリウス（ケンミジンコの幼生）、線虫類、ゾウリムシ類（繊毛虫類）、ワムシ類などが、続々と発見されました。

中でも人気があったのが「ミカヅキモ」です。ミカヅキモは「*Closterium*／クロステリウム／ミカヅキモ属」に分類される「接合藻類（綱）」の総称で、多くの種類が知られています。「ミカヅキモ」とは言っても、ほぼ直線的な形状の種もあります。しかし、今日6年生が発見したものは、「誰が見たってミカヅキモだ！」というも

のでした。写真は私が撮りましたが、細胞内部の「葉緑体」や「ピレノイド（でんぷん粒）」もはっきり見えていて、非常に美しい個体でした。ミカヅキモ発見の報に、その顕微鏡の前には「見学者」の列ができていました。授業者の6年の先生も優秀で、90分の授業があつという間の、実に探究的な活動でした。

2025年7月中旬
北区立東十条小学校

